令和のお木曳

編集発行 伊勢御遷宮委員会
伊勢市岩渕1丁目7-17
（伊勢商工会議所5階）
TEL 0596-25-5215
✉ jimukyoku@ise-gosengu.com
お木曳行事の広報紙
令和6年8月11日発行
第3号

棟持柱を曳く小川町勢勇団。奉曳車の後方に棟持柱用の「尻木」を付け足して奉曳（平成19年６月２日）

お木曳行事へ、心ひとつに準備始まる

安全安心な奉曳を信条に、役木や棟持柱の重責を全うする

小川町勢勇団　団長　平生秀彦さん

神宮式年遷宮の御用材を奉曳するお木曳行事。その最初に行われる「御木曳初式」は、正宮や別宮に用いられる重要な御木である「役木」を、関わりの深い奉曳団によって神域に曳き入れるため「役木曳」とも呼ばれます。内宮では平成18年4月12日に、外宮では翌13日に斎行されました。

外宮領で最初に奉曳するのは小川町です。「陸曳行列の先頭、栄えある一番車。ありがたい大役です」と第63回神宮式年遷宮の奉曳団長を務める平生秀彦さん。令和5年5月に団を結成しました。「小川町ではあえて口にせずとも遷宮行事に参加するのは当たり前といった町の雰囲気がありますが、世代交代や仕事の関係で地元を離れていたり、経験のない住民も増えています。そのため今回は早めに結成しようと、前回より1年以上早く立ち上げました」と平生さん。団の世帯数は81世帯と多くはありませんが、町の伝統と誇りを絶やさぬよう、継承に取り組んでいます。

そして第2次お木曳行事では、外宮御正殿の棟持柱を奉曳。小川町は宮川沿いにあり、水運の拠点として栄え、材木や薪炭を扱う商店や問屋が多く、代々「宮川関場組合」として御用材を守る役目を果たし、棟持柱奉曳の重責を任されてきました。長さ約12メートル、直径約1メートル、重さ約4トンという長くて太い御用材を、綱一本で奉曳車に縛り、運搬には技術と工夫が伝わっています。車の後部に「尻木」を付け足して地面に触れないよう丁寧に運び、貯木池に納めるときは御用材に巻きつけた綱の一部を脇の立ち木に渡し、重さで不安定になるのを防ぎます。慎重に綱を緩め、池に着水すると大きな水しぶきが。「みんなが一番ほっとする瞬間ですね。きちんと神宮さんまで運ぶのがお役目ですから」と平生さん。安全第一の奉曳が信条です。

慎重に外宮の貯木池へと御用材を納める

戦前のお木曳の様子（42本積んで）

役木を意味する「御式木（おんしきぼく）」の絵符（えふ）を掲げる

誌上はっぴ図鑑 ②

陸曳参加の奉曳団〈第62回御遷宮時〉

※神久社奉曳団から第一次奉曳順に掲載しています。

団ごとに意匠を凝らしたそれぞれのはっぴ。代々の柄を受け継いだり、デザインを新調したり、御遷宮行事への町衆の心意気が感じられます。前回御遷宮時のはっぴを、団ごとに「誌上図鑑」として紹介。第2弾となる今回は陸曳に参加した団の中から14団のはっぴを振り返ります。

新開梅栄団

小俣町奉曳団
明野分団・小俣分団

船江神習組奉曳団

神久社奉曳団

高向共盛団

北浜連合奉曳団

上長屋奉曳団

下長屋奉曳団

王中島護王団

二見町荘奉曳団

二見町今一色奉曳団

二見町西奉曳団

川端町天漁人奉曳団

磯町慶光院奉曳団

―次号以降も順次、奉曳団のはっぴを紹介します―

お知らせ

新穀感謝 第53回 初穂曳

令和6年10月
外宮領陸曳…15日（火）
内宮領川曳…16日（水）

お木曳の様式を継承しつつ、神嘗祭を祝いお初穂を奉納する初穂曳。伊勢の民俗行事における奉曳文化を伝えることを大きな目的としている行事です。稔りに感謝を込め、新穀を奉曳車・初穂船に載せ、外宮、内宮へそれぞれ奉曳・奉納します。

主催
伊勢神宮奉仕会

映像（YouTube）で前回の様子がご覧になれます。▶

陸曳：10月15日 9時～12時ごろ
高柳商店街（今社付近）～南宮町交差点～県道伊勢南島線～外宮
川曳：10月16日 10時～15時ごろ
五十鈴川浦田橋付近～宇治橋～内宮
※時間、経路は予定のため変更になる場合があります。

お木曳行事を実施する奉曳本部・奉曳団連合会結成式まで あと半年です【令和7年2月11日】

伊勢御遷宮委員会では、皆さんに伊勢の民俗行事・お木曳を広く知っていただけるよう、さまざまな情報発信を行っています。公式インスタグラム等で奉曳団の情報も共有していきます。SNSを立ち上げた奉曳団はぜひご一報ください。

公式Instagram▶

お木曳のこと、また奉曳団のことなど、お気軽に事務局までお問い合わせください。
伊勢御遷宮委員会
TEL0596-25-5215